

日刊県民福井 掲載記事 平成25年10月31日

専門外来でがん診療

福井県では、二〇一一年のがんによる死亡者数は二千三百九十八人と、死亡者全体の27・4%に上り、ここ三十年以上、死因の第一位を占め続けています。高齢化の進展により、がんで亡くなる方は年々増加傾向にあります。

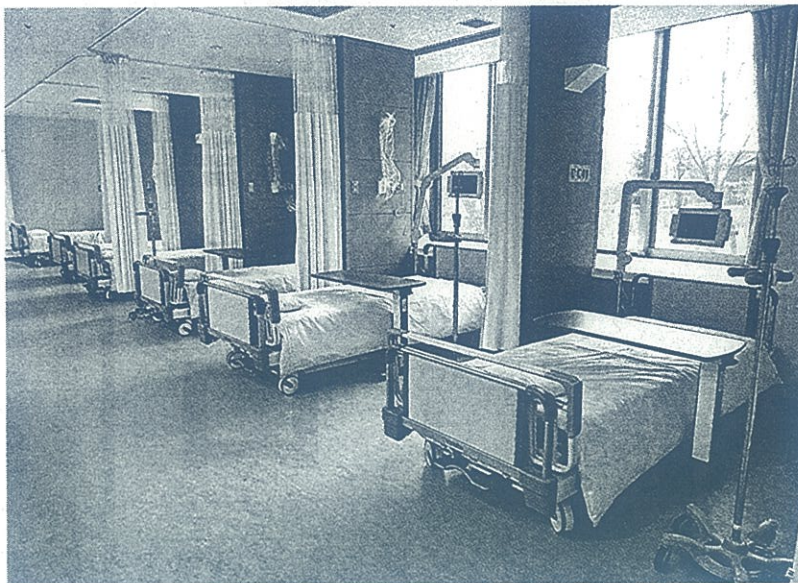
死亡者の割合を部位別で見ると、男性では肺がんが最も多く25・8%、続いて胃がんが15・3%です。一方、女性では大腸がんが最も多く14・2%、続いて胃がん13・9%となっています。また、がん罹患者(がんになった人)の割合で最も多いのは、男性は胃がんが20・0%、女性は大腸がんが17・0%です。

その他のがんの傾向として、男性の前立腺がんは六十代以降に急増しますが、死亡率は高くありません。女性では乳がんが最近増え、四十代に最も多くなっています。子宮がんは若年層から高い罹患率となっており、注意が必要で

県立病院副院長・
がん医療センター長

村北 和広

いきいき ライフ



外来化学療法室ベッド＝福井市の県立病院で

「治療日本一」を目指して

す。県立病院は〇七年に都道「がん医療センター」を開設し、府県がん診療連携拠点病院になりました。一年に日本海側に指定され、〇九年には「が

初となる「陽子線がん治療センター」が稼働を始め、さまざまな患者さんのニーズに対応できるよう取り組みを進めています。ここでは、本年四月に拡張移転した「がん医療センター外来」の機能について紹介します。一つ目は、がん専門外来です。がんの外来診療は、以前は各科の外来で一般診療と並行して行っていました。現在は①血液・腫瘍内科 ②胃がん③大腸がん④肺がん⑤乳腺⑥緩和ケアの各外来は、新しいがん医療センターの専用診察室で診療します。特に乳腺外来は、奥まった場所に女性専用待合室を新設し、男性の視線を気にせず受診できます。二つ目は、外来化学療法室です。抗がん剤治療の進歩に伴い、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんが、年々増えています。〇四年

に四床でスタートした化学療法室は、患者さんの増加に対応してベッド数を増やしてきましたが、手狭でした。今回ベッド数を二十床とし、面積も以前の約四倍に拡張し、両側が中庭に面した明るく開放的な環境で、快適に治療を受けていただけるようになりました。また、抗がん剤治療に精通した血液腫瘍内科医・看護師・薬剤師が常駐し、いつでもご質問にお答えすることが出来ます。

三つ目は、がん相談支援室です。相談員が窓口で、検査・治療・費用のことから心のケアまで、患者さんのさまざまなご相談をお受けします。ご希望に応じて、乳がん・人工肛門・がん疼痛などの専門認定看護師とゆつくり話すことも可能で、プライバシーに配慮した四つの個室を用意し、スタッフ全員で患者さんやご家族をサポートします。県立病院は「がん治療日本一」「健康長寿ふくい」を目指し、最新・最高レベルで安心・安全な治療を提供して、県民の皆さんの健康・生命をお守りするよう取り組んでいます。

検査や費用の相談対応

健康